ボクの心は動かない

妖精

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクの心は動かない

【Ｎコード】

Ｎ０９３３Ｙ

【作者名】

妖精

【あらすじ】

自信が作っためんどくさい病気鬱病ウィルスその特効薬を作り生物を元に戻すために試行錯誤を繰り返しウィルスと闘う！

始まり

僕の名前は真羅真逆（シンラマコト）から読んでも真羅真だ
正直どうでもいいがいま凄く困っている……その訳は家の家族全員が鬱病ウィルスに掛かってしまったからだ
※鬱病ウィルス（やる気がなくいつも視線は右斜め下をむいており、とにかく暗くなること）
まぁ家の家族だけではなく友達も親戚も世界中の約９割の生物が感染しており更にはこのウィルス……触れた人にも感染する……解りずらかったと思うから説明をすると
例えば既に感染している人にまだ感染してない人が触るとその人も感染し鬱病になる
こんなかんじだとにかく広めてしまった以上止める責任はある従って、てゆーか未だに抗体を作れないからちょっとくるしい……
……めんどうだ

デパート

「ふぁ～～～はぁぁ～それにしても誰も居ないな」
やはり鬱病ウィルスに掛かっているのだろうか大型デパートには人っ子一人居ない
「これでは商品を盗んで下さいと言っているようなものだ」
そんなことを一人でぶつぶつ言っているとどこからか音がするその音のするほうへ行くとそこには人がいた……いや人類が滅亡したわけじゃないから珍しく無いのだが感染していない人に会うのは久しぶりなのだ……その人は今流行りのＤＭＧ（ダンシングミュージックゲーム）をしていた
「よう……あんた一人？」
後ろからそうきいてみたすると
「ん？あぁ人か……まぁ今は俺一人だな」
（今は？）
俺の中では疑問が残った
「他には誰も居ないのか？」
そう聞いてみたすると
「居たけど……何か帰ったせっかくゲーム遊び放題だってのに」
（？？？！）
そう言い返した相手に俺は
「お前っていつからここに？」
そうきいたそしたら彼は
「１ヶ月位前から週に五回はきてるよ」
真は驚きを隠せないでいた自分以外の感染していない人間に会ったことではなく一年以上このデパートに来ている自分が同じ人間を見つけられなかったことに
※鬱病ウィルスが世に蔓延したのは今から約一年と半年で２０１３

年2月1日のことである

その後

「ん～～～…はぁ～～～」
全くと言っていいほど人に合って居ないとはいえまさかああゆう別れ方をしたとは……
『なぁなぁ！これからよろしく頼む！ってことで飯食いに行こうぜ！』
と満面の笑みで言って来たので俺は
『悪いが俺は家に帰らなければならない』
と、とっさにそう言ってその場からダッシュして別れてきたので何か申し訳ない気で一杯だった……
「はぁ～～～～～」
ため息しか出なかった掛かっていない（鬱病ウィルス）人に合ったとゆうのに
「帰って寝よ」
そう言って歩いていると突然後ろから
「お～い！」
誰かに呼ばれる、声の方に振り向くとそこには……

再開

ダッダッダッダッ……
「ハァ、ハァ、ハァ、ようやく見つけた、ハァ、ハァ、」
彼は息を切らしながら話す
「探すの…ハァ、ハァ大変だった……よ…ハァ、ハァ、」
そう言いながら俺の前で深呼吸をして息を整える
（なぜすぐ見つけることができたんだ？……あり得ない…まず初めにこの広い範囲内で俺を見つけるのは無理がある……まぁ道路に人がいるのは珍しいことになっているからな……でも分かれてから３０分、これだけで相当見つけにくいはずだ……）
そう思っていると突然
「なぁお前って料理出来る？」
いきなり言ってきた、正直びっくりしたとっさに俺は
「フッ、ハハハ…アハハハ」
笑った久しぶりに笑ったそれを見た彼は
「なんだよ～ッ、何が可笑しいんだぁ～」
彼は頬を膨らませていた
「ごめんごめん、何か久しぶりに可笑しくて」
そう言って苦笑していると彼も笑い始めた
「アハハ確かにね」
人と長らくコミュニケーションや会話をしなかったら何でも笑えてくるものだそういったやりとりの中彼は
「あっといけない、所でどうなの出来るの出来ないのどっちなの料理」
そう言えばそうだこいつは料理のことを聞いていたんだ
「まぁ人並みには出来るが（俺は子供（ガキ）の頃から料理は美味い方だからそこそこ出来るが一回定食屋に出したら国が動いたっけ……）」

言ったとたん彼が

「うしっ、じゃあ私に料理を作って下さいね！」

・・・「ハァ！！！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0933y/

ボクの心は動かない

2011年11月13日14時25分発行